

SDGs AICHI EXPO 2024
2024年10月10日



小中学校と連携したアマモ場再生の取組

佐久島におけるアマモ場再生等の環境活動

心に残る島がある。君たちに残す未来とつづく島

西尾市一色町佐久島 島を美しくつくる会 三矢由紀子

佐久島私たちのSDGs



- 愛知県三河湾に浮かぶ有人島3島の中の1つ、佐久島は最大の島です。
- 面積173ヘクタール、海岸線の総延長は約1.1キロメートル、人口196人（2020年国勢調査）
- 佐久島はアートの島として地域振興を図りました。
- 未来を担う子どもたちの取り組みでは、本土側から島の学校に通えるようにしました。
- 島に住む住民たちの会「島を美しくつくる会」はSDGsの活動を全力で取り組んでいます。

人気のアート作品



おひるねハウス/南川祐輝



イーストハウス/南川祐輝

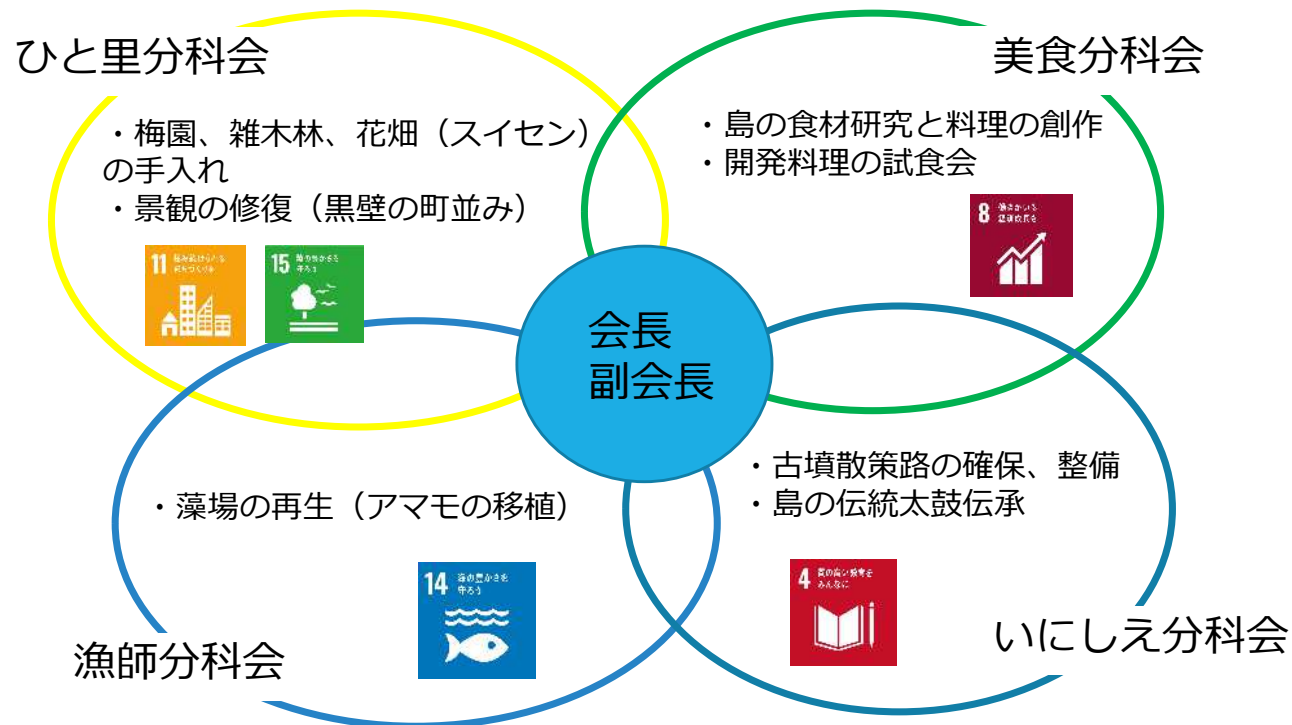


カモメの駐車場/木村崇人

島を美しくつくる会

「島を美しくつくる会」は、島民の自主的かつ創意あふれる活動を通して、自然、風土、歴史、産業といった佐久島固有の資源を発掘・研磨し、島を活性化することを目的に設立されました。

各分科会の活動



藻場の再生活動



海に起きた異変はめぐりめぐって人間の生活にも悪影響を及ぼします

佐久島中学校（現在はしおさい学校）では、1人の生徒の思いから2002年より総合学習で「アマモを増やして藻場を再生する活動」を始めました。

2006年からは島を美しくつくる会もこの活動を応援。島外のボランティアを募って活動を開始。現在も後輩たちに受け継がれています。今では200人余りが集まる活動になっています。

アマモ移植作業の1日の流れ

- 1 しおさい学校生徒が藻場について説明
- 2 藻場が豊かな場所からアマモを採取
- 3 株を分けて麻のポットを作る
- 4 藻場が少ない場所にポットを埋める



麻ポット





アマモ植栽マット作業

- 1 5月ごろにアマモの種を採取
- 2 11月ごろまで種を保存
- 3 種と泥を混ぜ、泥をマットに塗る
- 4 海底に沈める



これまでの藻場の再生活動の記録

2001年度活動スタート	参加者
2006年度 2007年度	参加者データなし (ボランティアが参加して活動開始)
2008年度	70名
2009年度	20名
2010年度	79名
2011年度	114名
2012年度	180名
2013年度	160名
2014年度	220名
2015年度	170名

	参加者
2016年度	175名
2017年度	193名
2018年度	234名
2019年度	65名
2020年度	50名 コロナ感染症対策のため 関係者のみ
2021年度	100名
2022年度	130名
2023年度※	305名
2024年度※	440名

※この活動に賛同いただいた日本郵船株式会社、旭運輸株式会社より企業版ふるさと納税を活用して活動を行う



里山保全活動



自然環境と生物の多様性を守っていくことが必要です

佐久島の山は、保安林指定や三河湾国定公園内にあるため伐採、開発がある程度規制を受けています。もともとは里山。里山とは人の手が入った森や林のことを指します。

その昔燃料を松葉や柴に頼っていた時代は山はとともきれいでした。山は海に栄養を送り込む大切な場所です。今では耕作地が放置され、森が放置され荒れた山になっています。



漂着ゴミ回収活動



このゴミを減らすのは普段のあなたのちょっとした気遣いです

海岸のゴミ。このゴミはどこから来たのでしょうか。島の人が捨てているのか、観光客の人が捨てているのか。

これは皆さんの住んでいる街から流れてくるゴミなのです。

漂着ゴミの70%は家庭ごみ、その次に多いのは事業系のゴミになります。ペットボトルや食品容器が目立ちます。

ゴミ拾いを楽しく出来るようにビンゴカードを作成して漂着ゴミの問題を皆さんに発信しています。



家並み保存活動



人がずっと住み続けられる街をつくるために

かつては家屋（板壁）に、漁師にとっては身近な材料であるコールタールを塗って「塩害」から家を守っていました。大正頃からの家も残っており黒壁の家並みが続きます。

また、路地の辻はきちっとした四つ角ではなく、島特融の風が集落を通り抜けられない様になっているためと言われています。

島の家の間取りは、玄関を入ったところに土間（キッチン）、部屋は田の字で4部屋という形式が多く、また土間には収穫したさつまいもを保存する芋穴と燃料にする松葉を収納できるロフトがありました。

この家並みを保存する「黒壁運動」を行っています。

おまけ





ご清聴ありがとうございました